

寄付の本質的理解と価値を明らかにする研究を促進するための

戦略ロードマップ

～新たな時代のエコシステムをみんなで作るために～

Ver.0.1

2022年12月16日

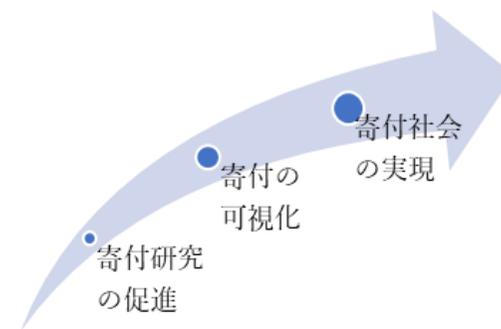
アジェンダ

1. はじめに
2. 戦略ロードマップ
3. 詳細解説・用語解説

1. はじめに

1. 目標・ゴール

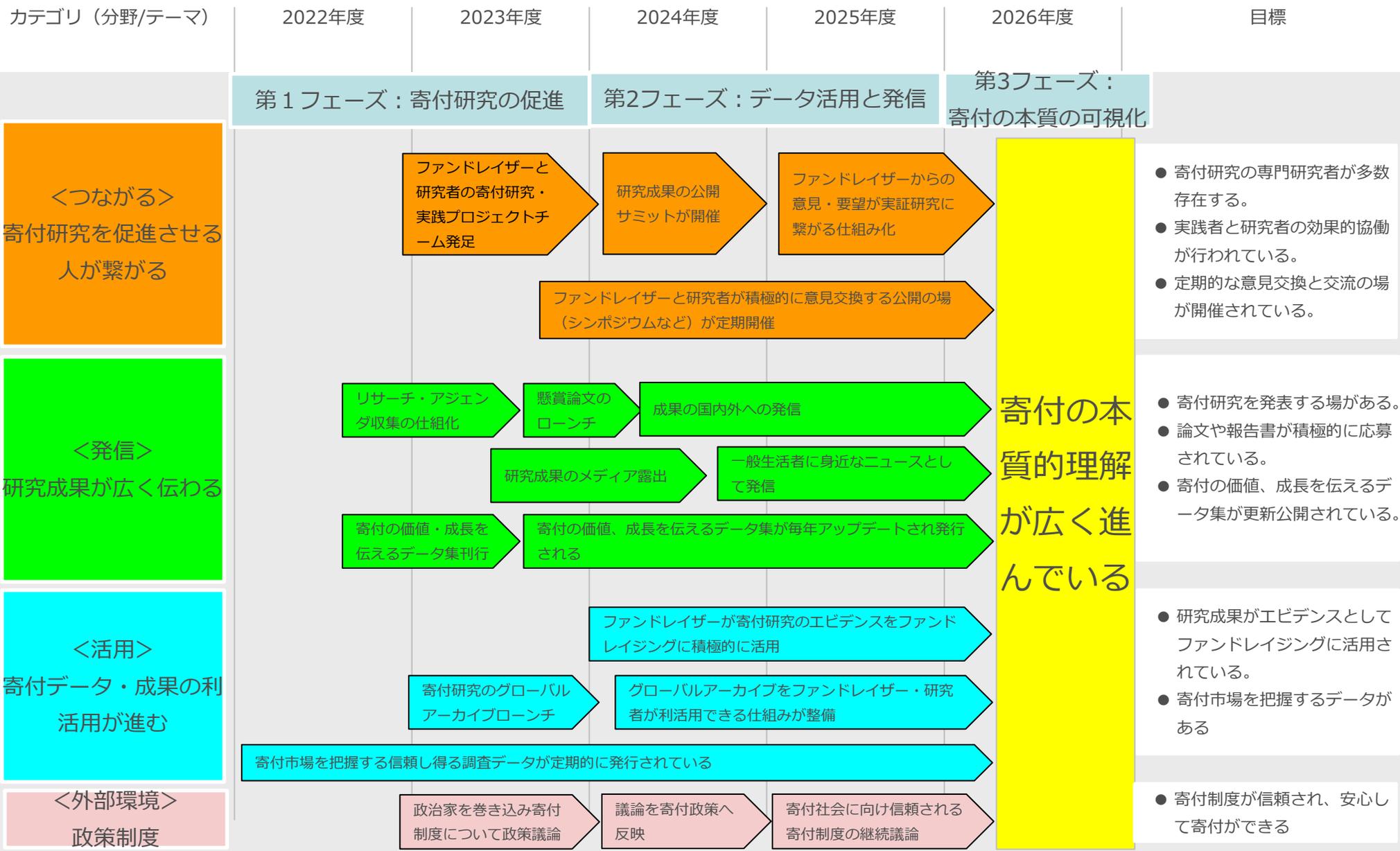
- 寄付は、それ自体は贈与や売買と同じく概念であり、目に見える形では捉えにくい。また古くからある陰徳の思想も相俟って、社会における実態を把握することは容易ではない。そこで、**寄付の本質的価値や力を可視化する、すなわち社会において寄付への理解が促進され、その役割と力がよく実感されるようになる**ことを目指す。実務家と研究者の協働により、日本における寄付の実態を詳らかにし、寄付の本質的理解の促進のための実証研究を推し進める土壌をつくる。
- **2025年には、寄付研究者と呼ばれる専門家がより活躍し、その研究成果を発表する場があり、寄付に関わる実務家はその成果をファンドレイジングに積極的に活用することで、エビデンスに基づき寄付の価値・成果が可視化されている社会**になることを目指す。



2. 具体的施策

		フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ
施策①	つながる：実務家と研究者をチームアップ	プロジェクトチーム発足	協働研究の促進	実務と研究が繋がる仕組み化
施策②	発信する：寄付研究発表の場作りと社会への発信	リサーチアジェンダ設定 寄付トレンド集の公開	懸賞論文募集と成果 発信	メディアを通じて身近なニュース発信
施策③	活用する：研究アーカイブの設置と寄付白書発行	グローバルアーカイブ ローンチ	アーカイブの利活用	寄付白書2025で成長を実感
施策④	外部環境：アドボカシー活動	議員との意見交換	寄付関連政策への提言	寄付を促す制度の充実化

2. 戦略ロードマップ



寄付の本質的理解が広く進んでいる

3. 詳細解説・用語解説等

A. 施策① 実務家と研究者をチームアップ

寄付情報の提供や実験的ファンドレイジングの実施に協力的なNPOのファンドレイザーと、寄付研究を行いたい研究者をチームアップする。これまでのようなアンケート調査以外にも多様なデータソース（外部金融ITやフィンテック）の分析も視野に入れ、産学官民、メディアなど多様で幅広いアクターを巻き込む。

委員会では、ファンドレイザーを中心とした実務家から寄付促進のための科学的実証・効果測定に関する意見・要望を集約し、研究者による実証研究につなげることを目指す。

B. 施策② 寄付研究発表の場作り

寄付研究を発表する場を作り、研究を促進し、日本における寄付を可視化する。具体的には次の施策を検討。

- 寄付研究のグローバルアーカイブ（オンライン）
- 研究助成のためにリサーチ・アジェンダを提示し、懸賞論文（実務家ターゲットの「実践報告」と研究者ターゲットの「研究論文」、寄付研究促進委員会が査読）を募集
- パネルディスカッション：寄付月間企画とし、実務家と研究者の積極的意見交換の場とする

C. 施策③ 寄付白書の継続と寄付トレンド集：スライドテックの制作

2025年に次回寄付白書発行を目指し、企画、編集を進める。併せて、寄付に関心を持つ人たちに寄付の価値、成長を伝える寄付トレンド集：スライドテックを毎年発行する

D. 寄付研究促進委員会（仮称）

実務家と研究者からなる寄付研究促進委員会を編成

- 年3回程度開催しプロジェクトの進捗をモニタリング
- メンバーは推薦と公募で、実務家と研究者は凡そ同数を想定。日本NPO学会、寄付研究センターなどとも連携
- ファンドレイザーや研究者のほかに、学生（院生含む）もサブメンバーとして想定
- 事務局を置き、実務管理を行う。

